

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(第 2016版), 名古屋環境経済産業局環境政策課環境評価システム2016 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)N3計画	階数	地下2F、地上10F
建設地	名古屋市中区錦三丁目21番24号	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1,700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集会所,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2019年4月25日
敷地面積	5,221 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	4,418 m <sup>2</sup>	確認日	2019年4月25日
延床面積	47,265 m <sup>2</sup>	確認者	

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**= BEE3.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

① 参照値	0
② 建築物の取組み	72%
③ 上記+②以外の	72%
④ 上記+オフサイト手法	72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 4.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.2

音環境	4.4
温熱環境	4.2
光・視環境	4.0
空気質環境	4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.4

機能性	4.6
耐用性・信頼性	4.2
対応性・更新性	4.5

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.8

生物環境	3.0
まちなみ・景観	5.0
地域性・アメニティ	3.0

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

建物外皮の熱負荷	4.1
自然エネルギー	4.0
設備システム効率化	4.2
効率的運用	5.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

水資源保護	3.8
非再生材料の使用削減	4.1
汚染物質回避	3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化への配慮	4.1
地域環境への配慮	3.1
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項	
<p><b>総合</b></p> <p>中部地区の本部拠点ビルとして、下記の項目を重視し設計を行った。</p> <p>執務室の機能性・快適性</p> <p>災害時のBCP対応</p> <p>環境配慮</p> <p>地域貢献・CI (コーポレートアイデンティティ) 向上</p> <p>館内セキュリティ対応</p>	<p><b>その他</b></p> <p>中部地域で主に生産・加工されている材料(磁器質タイル、自然石、繊維等)を内装材に選定し、中部地域の建物に相応しい設えとした。</p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>遮音性の高い材料を選定し、室内の音環境に配慮した。トプライトにより自然光を取り入れられる計画とする。照明制御を導入し執務室の光環境に配慮した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>十分な執務スペースを確保するとともにリフレッシュコーナーとした。</p> <p>維持管理しやすい建築材料を選定した。</p> <p>信頼性の高い設備計画とした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>熱負荷抑制につながる外装計画とした。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>水資源保護に計画とした。</p> <p>非再生資源を極力低減する計画とした。</p>
	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>屋上緑化、壁面緑化を計画し地球温暖化抑制に配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される